学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

ページ番号

（１） 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 ・・・・・・・・・ 2

① 学生の確保の見通し ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

ア 定員充足の見込み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 ・・・・・・・・ 2

② 学生確保に向けた具体的な取組状況 ・・・・・・・・・・・・・ 3

（２） 人材需要の動向等社会の要請 ・・・・・・・・・・・・・ 4

① 人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的 ・・・・・・ 4

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ・・・・・・・・・・・・・ 5

１）社会的・地域的な人材需要の動向 ・・・・・・・・・・・・・ 5

２）本学の就職状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

学生の確保の見通し等を記載した書類

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①　学生の確保の見通し

ア　定員充足の見込み

この度、令和5年4月に、同一法人の兵庫大学に教育学部教育学科を開設することに伴い、本学保育科第一部の入学定員を100人から80人（△20人）、収容定員を200人から160人（△40人）に変更する。教育学部教育学科は、短期大学と同様、幼稚園教諭の免許課程、保育士課程を有することから、兵庫大学短期大学部保育科の収容定員を調整し、保育科と新学科の共存、また両学科それぞれの特性を生かした「質の高い教育者・保育者養成」を目指し、短期大学部保育科第一部の入学定員の見直しを行う。定員の設定においては、これまでの入学実績や入学志願動向等を踏まえ、検討、設定した。

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

保育科第一部（2年制）及び保育科第三部（3年制）の過去5年間（平成30（2018）年度～令和4（2022）年度）の定員充足率をみると、保育科第一部では、平成30（2018）年度＝1.02、令和元（2019）年度＝0.79、令和2（2020）年度＝0.80、令和3（2021）年度＝0.66、令和4（2022）年度＝0.55となっており、過去5年間の入学定員充足率は0.76である。保育科第三部は、平成30（2018）年度＝1.12、令和元（2019）年度＝1.07、令和2（2020）年度＝1.11、令和3（2021）年度＝0.87、令和4（2022）年度＝0.92となっており、過去5年間の入学定員充足率は1.01である【資料1】。令和4（2022）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）によると、令和4（2022）年度の短期大学等への入学者数は39,461人（前年比△8.5%）、入学定員充足率は77.59%（前年比△4.97%）となっており、全国的に短期大学への入学志願者は減少傾向にあり、本学においても、保育科第三部は一定数の入学者を確保できているものの、保育科第一部においては、年々減少している。

このことを踏まえ、保育科第一部の入学定員を100人から80人へと変更する。
直近2年間の保育科第一部の入学定員充足率は0.8を下回っているものの、歩留率は令和3（2021）年度は95.7%、令和4（2022）年度は87.3%といずれも8割を超えており、保育科の魅力を発信し、さまざまな策を講じることで、受験者数を確保し、入学定員を充足することが十分可能と考える。また、教育的な側面から見ても、相互に切磋琢磨できる環境を整えるためには、一定数の学生が必要であり、本学の教育運営の効果を最大限発揮できる人数として、入学定員を80人とする。

【資料1　既設学科の募集状況等（保育科第一部・保育科第三部）】

②　学生確保に向けた具体的な取組状況

本学においては、学生確保に向けた具体的な取組内容を審議する委員会として、「兵庫大学・兵庫大学短期大学部学生募集・入試制度検討委員会」を設置している。本委員会では、事務局長、入学部長、学部長、入学部事務部長、入学課長、各学科教員（学科より各1人）が構成員として、本学のアドミッション・ポリシーに基づく学生募集を展開するため、学生募集全般及び入学者選抜に関する事項を審議している。委員会では学生募集に係る総括を行いながら、この総括や社会情勢を踏まえ、毎年度学生募集戦略を策定し、それに基づく多様な戦略を展開している。本委員会の他、「大学運営会議」においても随時、報告がなされ、報告内容に応じた諸活動を展開できるよう、全教職員が現在の学生募集状況等を共有している。

また、年間9回のオープンキャンパスや入試相談会を開催するなど、受験生を対象として、学部学科紹介、体験授業、個別相談等のプログラムを行い、本学の教育方針、学部学科の学びの特徴や入試制度等の理解を深められるよう工夫している。また、コロナ禍により、オープンキャンパス参加への不安や、移動などが困難な受験希望者のために、「あなただけのオープンキャンパス」や「オンライン個別相談会」（いずれも事前予約制）を実施している。「あなただけのオープンキャンパス」では、各回1組を対象に実施しており、学科概要、入試、学生生活などについて個別に対応している。「オンライン個別相談会」は、zoom、メール、電話の3つの方法から、自分に合った方法で相談をすることができ、いずれも個別の質問等に対応している。

加えて、高校教員を対象とした本学説明会の開催や教職員による高校訪問により、本学の状況だけでなく、各高校の進路の状況の収集を行うなど、情報交換の場を設けている。

このほか、入学案内や公式サイトによる情報発信も強化しており、受験生やその保護者を対象とした受験に特化したサイトとして、受験生応援サイトを設置するほか、SNSにおいては、1日1回記事をアップロードし情報発信を強化している。

以上のように、本学では受験生や保護者、高校等に対する大学からの情報を積極的に発信している。

本学は、約70年に亘る長い教育実績を有しており、これまで輩出した保育者（卒業生）は約15,000人である。本学が学生募集のターゲット地域としている兵庫県西部の高校及び受験生に対して、安定した認知度を保っている。本学の保育科は、学園の創設者である河野厳想が人間形成の基盤となる乳幼児の教育を担う人材を養成するため昭和29（1954）年に睦学園幼稚園教員養成所、翌年の昭和30（1955）年に睦学園女子短期大学（保育科第二部）を設置したことに始まる。社会的に幼児教育に関する関心が高まる中、建学の精神である「和」を育む仏教主義に基づく短期大学として、専門の知識、技能を教授研究するとともに、幅広い教養を養い豊かな人間性を涵養し、以て社会に貢献できる見

識と能力を備えた職業人として有為な人材を養成することを目的として設置された。同一法人内に、2 つの附属幼稚園を有し、その 1 つは本学と同じキャンパス内に設置されている。附属幼稚園とは、学生の授業や実習での繋がりのほか、個別指導計画（IEP）や幼児への STEAMS 教育など、教員の先駆的な取り組みの研究、教育実践の場としても活用されている。また、同じキャンパス内にあることで、園児と学生が共に過ごす時間も多く、幼児教育の専門家を目指す学生にとって、最適な環境が整備されている。

また、保育科第一部、保育科第三部ともに 12 年連続で就職率 100%であり、令和 4（2022）年 3 月卒業生では、公立園に現役で 14 人が採用されるなど、高い就職実績を有している。

少子化や 18 歳人口の減少、社会的環境などから、短期大学へ入学する学生が減少する中にあって、幼児教育を担う人材の養成は本学園の根幹でもあり、これまでの教育実績を大切にしながら、さらに教育の充実を図っていく。保育科第一部の入学定員を 80 人に変更し、適正な規模での教育研究を行うことで、教育効果を一層高め、継続して入学定員を確保する。

（２）人材需要の動向等社会の要請

①　人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的

保育科第一部、保育科第三部は、保育、福祉の意義を深く理解させ、子どもの「生命、生存、発達への権利」を尊重する精神を養い、幅広い教養や十分な専門的知識、技能を修得させることにより、豊かな人間性を基盤とする資質の高い保育者を養成することを目的としている。

その具体的な養成する人材は以下のとおりである。

・他の保育者と連携して、子ども・利用者・保護者を尊重し寄り添いながら、共に生きる力を有する人材
・保育者としての使命感を持ち、保育をめぐる諸課題について、自ら考え解決する力を有する人材
・保育の専門的な知識・技術を持つとともに、社会状況の変化に対応しながら、保育者としての専門性をさらに高める力を有する人材

このような人材を養成するため、保育科第一部、保育科第三部では、特に①ピアノや造形などの高い実践力を身につける教育、②学んだ知識・技能を活用した地域の親子向けのプログラムの企画・運営、③進路実現に向けた手厚い就職サポートを特色としている。

②　上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

１）社会的・地域的な人材需要の動向

急速に変化する時代の中で、人格形成や国家・社会の形成を担う人材の育成に、教育が果たす役割は大きく、特に、土台となる乳幼児期の教育は重要である。子どもたちが心身ともに健やかに育つ環境を整備することができる、実践力の高い幼児教育の専門家が求められている。

人材需要の動向として、幼児教育・保育の全国的な動向を見ると、「保育士の有効求人倍率の推移（全国）」によると、令和4（2022）年4月の保育士の有効求人倍率は1.98倍（対前年同月比で0.06ポイント下落）となっており、全職種平均の1.17倍（対前年同月比で0.13ポイント上昇）と比べると、依然高い水準で推移している【資料2】。兵庫県に限定すると、過去5年間の保育士の有効求人倍率では、1.83～2.68倍で推移しており、依然、保育人材の確保が求められている。

〔表１〕　兵庫県の保育士の有効求人倍率等の状況

	新規求職申込件数	有効求職者数	新規求人数	有効求人数	有効求人倍率
平成 30 年 11 月	187	881	888	2,358	2.68
令和元年 5 月	155	755	414	1,464	1.94
令和 2 年 10 月	199	916	695	2,022	2.21
令和 3 年 10 月	168	908	784	2,057	2.27
令和 4 年 4 月	384	958	520	1,754	1.83

※出典：厚生労働省ホームページより

【資料２　保育士の有効求人倍率の推移（全国）】

２）本学の就職状況

本学では、保育科第一部・第三部のほか、同一法人内の兵庫大学生涯福祉学部こども福祉学科において、幼児教育・保育の専門職を養成している。企業を除く過去５年間の幼稚園・保育所・認定こども園・施設からの本学への求人件数等の推移を見ると、平成 29（2017）年度＝1,761 件、平成 30（2018）年度＝1,744 件、令和元（2019）年度＝1,499 件、令和 2（2020）年度＝1,492 件、令和 3（2021）年度＝1,491 件と若干の増減はあるものの、約 1,500 件から 1,700 件で推移しており、安定して幼児教育・保育の専門職への求人がある。本学への求人件数の推移から、保育科第一部の収容定員を 100 人から 80 人に変更した場合でも、十分な求人件数があるといえる【資料 3】。

また、就職実績では、短期大学部保育科第一部・第三部においても、過去 12 年間にお

いて連続して就職率は 100%であり、同一法人内の生涯福祉学部こども福祉学科においても、1 期生から連続して就職率 100%を維持している。専門職等就職状況では、保育科第一部・第三部においては、過去 5 年間で 86.3%から 91.8%の間で推移しており、こども福祉学科では幼稚園・保育所・施設への就職は 1 期生が卒業した平成 29（2017）年度より 85%前後の実績を有しており、本学では、これまでの実績から社会的要請に対応した幼児教育・保育の専門職を輩出していると言える【資料 4】。

以上のことから、これまでの本学への企業からの求人件数の実績は、定員を大幅に超える求人件数となっており、保育科第一部の収容定員を 100 人から 80 人に変更した場合でも、安定的かつ継続的に就職先を確保することができる。

【資料 3　保育科及び生涯福祉学部こども福祉学科の就職状況等】
【資料 4　保育科及び生涯福祉学部こども福祉学科の専門職等就職状況】